

本日の講義で最も共感を得た事は「コロナ禍で学んだ事」に関してだ。私達はコロナ禍で「ニュースを知らない、生きられない」「世界はつながっている」「人命と人権以上に大切なものはない」「『新しい日常』の中で生きる」という事を学んだと三好記者がお話しして下さった。この中から「ニュースを知らない、生きられない」といった点で、ワクチン情報や緊急事態宣言情報、政府の政策や経済についてなどいつも以上に多くの事を自分からニュースに向き合っていたと改めて気づいた。さらに「人命と人権以上に大切なものはない」といった点では、日本政府がコロナ禍でオリンピックを開催する事は感染リスクが拡大し、人命を疎かに考えているのではないかという点が幾つもあった。また政府以外にも医療現場を支えて一生懸命頑張っている人たちを追い詰めるなど人権を尊重していない発言が多々あった。また、『新しい日常』の中で生きる」というのは戦争を経験せず、我々のような平和ボケしているような世代にとって自粛生活やマスク生活は最大の難関であったように感じれる。だがインターネットが普及した現在において、学校や会社、医療受診などオンライン上での会話が成立する事がわかった。パンデミックが起ると世界の技術は進化すると聞いた事があるが、まさにコロナ禍やアフターコロナがきっかけになると私は考えている。そのように日々変化する中で紙媒体の新聞は昔から変わる事なく存在し、色々なニュースを届けてくれる。時代の変化に合わせてネットニュースも活躍している。そのネットニュースも新聞記者が書き多くの人へ届けている。これからも新聞業界は色々な人から必要とされるだろう。今回の講義を通して私はニュースの大切さを知ることができた。

本日の講義では新聞の優れている点がよくわかった。そのうちの一つとして、一覧性があることである。新聞の情報量は多く、知りたい情報以外も掲載されており全ての記事に目を通すのは非効率である。記事の特性として、初めの数行で結論と5w1h（誰がいつどこで何をなぜどのようにして）がわかることが多いので軽く目を通すだけで欲しい情報を取捨選択できる

信頼性があることも利点といえる。新聞に掲載されている記事は、必ず記者の取材という裏付けがあるため他のメディアに比べて信頼性が極めて高い。最近であればコロナ関係の情報はデマが流れることが多いが、新聞からの情報であれば専門家などにも取材を行っており信頼できる情報といえる。

最近ではSNSから情報を仕入れることに慣れていたので確かな情報という面では新聞が優れているということを確認できた。本日は参考になる授業をしていただきありがとうございました。

私は今回の特別授業を受けて、新聞を読むことが大切であることを理解しました。私は、ニュースをテレビやインターネットで見ることが多いですが、新聞を見ることによって、具体的な内容を詳しく知ることができたり、何回も読むことができるというメリットを見つけることができました。また就職活動があるので、大学の図書館で新聞を読みたいと思います。

(166字)

・本日の授業で「神戸新聞ができるまで」の動画を見たときに、毎日新しい情報が我々に届くまでにあれだけの人が動いて、あれだけの工程があることを知りました。新聞は毎日印刷されるので新聞社で働いている方は休みなく情報を追い、会議、編集、校閲に励まれていることを知ると折角新聞を取っているのだからテレビ欄やスポーツ欄だけではなく全ページ目を通すべきだと思いました。

さらに新聞はネットなどと違い、裏付けがしっかりした情報が掲載されているので安心して情報を得ることができるメディアだと思いました。今はコロナの感染者数なども気になるのでそういったことも正確性がある新聞から情報を取り入れるべきだと思いました。